

守山まるごと活性化プラン検討委員会（第3回全体会議）議事録

日 時：平成 25 年 12 月 16 日（月）19：30～21：10

場 所：吉身会館

出席者：【委員】：布野委員長、高野副委員長、
河野委員、小西委員、杉田委員、高谷委員、竹村委員、谷口委員、
（代）井上委員、中委員、西田委員、西村委員、濱崎委員、日下山委員、
藤井委員、舟橋委員、本城委員、三品委員、三宅委員、村上委員、
山岡委員

【事務局】：島戸政策調整部長、大寄政策調整次長、坪内課長補佐、吉原主査

【その他】：関係職員、コンサルタント

次 第

- (1) あいさつ
- (2) 学区毎のプロジェクト（具体策）について
- (3) まるごと活性化プランの内容構成について
- (4) 今後の検討および策定の進め方について
- (5) その他（事務連絡など）

1 開会

あいさつ（部長、委員長）

2 議事

- (1) 学区ごとのプロジェクト（具体策）について

布野委員長	学区別に補足や思いを説明いただいた後、必要があればアドバイザーを務めていただいている浜崎先生にコメントをいただきたい。
井上委員	学区長が所用のため欠席しているので、代理出席している。 守山学区の現状は、現在抱えている課題がかなり多いことである。マンションや住宅開発により新住民が急激に増え、これまで培ってきた地域のつながりが薄らぎ、役員の成り手がなく困っている。細々とした地道なボランティア活動のもとに今日の素晴らしい守山学区が築き上げられているので、今後もぜひこういった活動を継続していくべきであると思うし、地域の良さや活動をこれからも繋げていきたい。 しかし、地域の大きな変化によって、今までの自治会運営では立ち行かなくなってきた。今こそ自治会運営について真剣に考えていかなければ

	<p>ならない時である。まるごと活性化につなげるためにも、「自治会の魅力向上プロジェクト」をメインテーマに上げ、現状をしっかりと議論し、良い学区にしていきたいと考えている。</p> <p>残りのプロジェクトについては、時間もないので割愛する。もし、後で時間があれば紹介させていただきたい。</p>
布野委員長	<p>新旧住民の問題に住民自らが解決するため、取り組もうとされていることは、全国的にも珍しい。駅周辺地域ではそういうことが起こっており、守山学区では組織体制等の構築がメインテーマであるということである。水とホテルは全市的課題でもあるが、守山学区では他にも伊勢遺跡と歴史資源の取組が上がっている。</p>
濱崎委員	<p>上手くまとまるか心配するほど守山学区では、活発な議論が交わされていたが、最後は上手くまとまって良かったと思っている。学区としてかなりエネルギーがあるという印象を受けた。</p>
三宅委員	<p>たからもの探しに始まり5回の会議の中で議論を進めたが、JRを隔てて西と東に分断された学区であるため、同じ状況の守山学区と似たプロジェクト内容となっている印象を受けている。</p> <p>東の立入小学区が4割、西の吉身小学校区が6割という住民構成であり、まちの活性化のためにも東側にもまとまったものがあればという意見も出ている。</p> <p>ホテル保護活動にしても経験者がなく、取組の方向性の役割分担や具体化が出来ていない。「中山道を軸とした観光促進プロジェクト」「祭りだ！わっしょいプロジェクト」をはじめ、守山学区と共同で勉強しながら進め、吉身学区の中でも独自の取組ができればと考えている。</p>
濱崎委員	<p>吉身学区は比較的順当に進んだので、特にコメントはない。</p>
三品委員	<p>小津学区内の9町のうち6町は新守山川に隣接していることもあり、新守山川は身近にあり、常に親しんでいる学区のたからものである。</p> <p>桜の植樹やウォーキングコース、散策コースの整備が学区として取り組みやすいため、まずはこういったものから進めていき、ホテルや自然を大切にしながら人が集まりやすい場所にしていきたい。</p>
谷口委員	<p>玉津学区は過疎化が進み、人口も小学生数も市内で一番少ない学区である。歴史が古く寺院や諏訪屋敷を中心に発展したまちであるため、この取組でも諏訪屋敷を中心としたプロジェクトで学区を盛り上げていきたいと考えている。2～3年前から諏訪屋敷を活用した取組を始め試行錯誤を繰り返しているが、こういった自治会の経験を活かした取組をまるごと活性化の中で更に拡大したいとの意向でうれしく思っている。農村文化まるごと体験</p>

	<p>の取組についても2～3年前から実施し、地産地消に取り組んでおり、ひとつの自治会での取組を玉津学区全体に広げ、内容を充実させていく。</p> <p>「赤野井湾再生プロジェクト」については、赤野井湾は魅力のある場所であるので、是非とも再生したい。小津・玉津漁業組合等各種団体と協力して観光資源化し、昔の面影を取り戻すように取組を発展させていきたい。</p> <p>「定住促進プロジェクト」については、ひとつの自治会で地区計画を活用し、人口増加につながるような取組を進めたいと考えている。</p>
布野委員長	<p>同じ市内でも新住民が増加している地域と過疎化が進んでいる地域がある。これを上手くセットできればすごいモデルになるのではないか。</p>
濱崎委員	<p>過疎化対策として、都市計画を活用して人口増加を進めたいという意見が強く出ていた。何らかの方法で人口増加地域と減少地域のバランスをうまくとることを考える必要がある。</p>
高野委員	<p>河西学区は玉津と守山・吉身を合わせたような学区である。一時は大幅に減少した河西学区の生徒数も、近年宅地造成が進んだことで千人を超え、若い世代が集まる地域と高齢化率の高い地域と両極端の自治会を抱えている。</p> <p>学区内に流れる野洲川とは切っても切れない関係である。笠原の堤防の桜並木、喜多の薄墨桜、近江妙蓮があり、その季節には多くの人が訪れるが、四季を通じて1年中楽しめる花のまちにしたい。コスモスなどは3年しか咲かないため、スイセンや彼岸花など球根植物を笠原から川田大橋間の堤防に植えたいと考えている。また近江妙蓮を国の天然記念物に指定してもらうように申請する動きも始まっている。花のプロジェクトは10～15年がかりの取組になるが、学区の住民が同じ作業で集まるということは、新たな交流を生むことになり、住民同士のつながりを生む。</p> <p>野洲川河川敷の川田グランドゴルフ場の近くに市がスポーツ公園を整備中であるので、このあたりも一体的につなげて河西学区の名所にしていきたい。</p> <p>秋に河西学区の名所ウォーキングイベントを実施したが、あっという間に定員に達した。阿比留のカワトなど住民でも知らない多くの発見があるため、毎年続けていき、ウォーキングマップの作成を進めたい。</p> <p>また、今までの学区広報誌は開催報告が主であったが、今後は開催のお知らせなど未来形の発信をしていきたいと考えている。</p> <p>野洲川近辺がクローズアップされているが、西側にも市民農園と荒身ファームがある。別々に実施していた収穫祭を来年度からは合同開催するように依頼し、河西の良さを発信していきたい。河西の川ではどこでも魚が取</p>

	れるため、こういったこともひとつのたからものとして活用していきたい。
濱崎委員	個人的に衝撃を受けたのは阿比留集落で、かなり面白い空間構成をしている。周りを新興住宅地に囲まれているので、中の良さが見えにくいですが、部分的に切り出せば文化的景観として文化財になる。議論の中でも、阿比留の学区内での認知度が低いような気がした。少し見方を変えて、文化的景観としてとらえ方で違う方法で活用していく方法もある。
布野委員長	学区住民でも知らなかったということだったが、カワトは滋賀県内でも地域性があるのか。
濱崎委員	水が出るか出ないかという問題や、針江のように自噴しているところもあれば、五個荘のように川の水を引っ張りこんでいるところもある。
布野委員長	花の活用は1年を通じて取り組めそうか。
高野委員	1年を通じて取り組む予定である。
山岡委員	<p>大阪からみると、京都を超えて滋賀にはなかなか目が向かないだろう。滋賀でも彦根や長浜は知られているが、守山は知名度が低い。関西圏での守山の認知度を上げるため、何かヒット商品やシンボルとなるようなものができないかと考えている。また、県内であっても大津側から琵琶湖大橋を渡って来ても、看板がなければ守山市だとわからないのではないかと。ピエリが衰退したこともあり、買い物はイオンモール草津か竜王アウトレットへ行き、守山市に人が集まらなくなっている。</p> <p>速野学区は琵琶湖に隣接しており、琵琶湖や対岸の山並みなど速野の景観は守山一だと思っており、素晴らしい地域である。自然やスポーツを通して楽しめる回遊ルートや花のネットワークづくりの取組等で、明るく美しいまちづくりにより、活性化を目指していく。</p> <p>速野学区は市内で一番若いまちだと思っている。10自治会のうち3自治会は設立して15年経っていない。守山市の北玄関であるこの地域がいずれは中心市街地よりも活性化していくと思っているので、学区で力をあわせて、関西で知らない人がいないように守山市の知名度を上げていきたい。</p>
本城委員	<p>中洲は学区の真ん中に野洲川放水路が流れており、切っても切れない関係である。昔は伏流水がふんだんに流れ湧水が自噴もしており、各家庭にカワトがあり日常生活に利用していた。新放水路になってから、水がなくなりホタルもいなくなってしまった。全体会議の委員でもある水の専門家の河野先生のご指導を仰ぎながら、行政からも積極的に伏流水の再生に働きかけをしてほしい。</p> <p>野洲川河川敷も荒れ放題であり、いかだ下りイベント時の草刈りも実行委員で行なっている。野洲川河川敷の活用はまるごと活性化プランにも盛り</p>

	<p>込んだが、野洲川かわまちづくり検討委員会でも検討し、3年計画で取り組むことになり、27年度には取り組むという姿勢で進めている。中洲のまちづくりの原点は川であり、水なしのまちづくりは考えられない。</p> <p>また、ビックレイク等の集客施設はあるが、バスの便数が少ないため、タクシーの相乗り利用で、バスを利用しない。その結果ますますバスの便数が少なくなるという悪循環が生じている。地域公共交通の活性化にも行政主導で取り組んでいただきたい。</p>
河野委員	<p>伏流水は自然現象であるので、人が相当努力して取り組まないと解決は難しい。改修以前の野洲川は天井河川であったため、中洲を中心に伏流水も豊富であった。しかし、災害面を考慮すると、伏流水がなくなるのは仕方がないことである。</p> <p>自然と人間の調和共生を慎重に考えながらプランをつくる必要がある。自然を大切にしようとする人間は我慢しなければならない。人間の欲望を取り入れると自然が後退するという、どうにもならない部分もある。</p> <p>伏流水を昔のように回復するのは無理でも、それに近い代替案の技術はある。そのためには労力と予算が必要であり、この場での対応は難しいので、別途プロジェクトを立ち上げ専門家を交えた議論が必要である。</p>
布野委員長	<p>学区からあげられた取組の役割分担や予算、運営管理については、学区と市との関係の中で来年度以降進めていくことが前提だと考えている。</p> <p>今年度中に計画をつくり、来年度から具体的に動き始める。そのためには、予算や役割分担の問題がある。各学区で現在市が取り組んでいる施策が挙げられており、その中で今すぐできる取組もあれば、時間をかけて議論していく問題もある。</p> <p>重点項目や7学区の共通性等、市全体を俯瞰した立場で残り時間で議論していただきたい。</p> <p>その前に、前回会議後にいただいた意見について補足説明をいただきたい。まずは今日の議論もあるので、まとめに向けて高谷先生からコメントをいただきたい。</p>
高谷委員	<p>時間もないので、提出した資料を読んでいただければと思う。</p>
布野委員長	<p>私の理解では、各学区の歴史的遺産を大事にしろということが基底にあるという理解をしている。</p>
日下山委員	<p>電柱もないような田園風景の真中に倉庫が立ち、景観が崩れてしまったことがあり残念に思った景観がある。守山ではそういったことがない様に慎重に保全や開発を進めていただきたい。</p>
西田委員	<p>全体会議の中での説明時間が長く、委員の意見を吸い上げたり議論の時間</p>

	がもっと必要であると思ったので、意見として書かせていただいた。
竹村委員	南の玄関の伊勢町に住んでいる。7学区の議論の中でテーマやプロジェクトが出ているが、水、ホテル、人のつながりなど各学区のテーマが共通しているように思う。学区のプロジェクトをまとめて、計画的に順次テーマを決めて取り組んでいただきたい。
布野委員長	指名はしないので、順次発言をいただきたい。
本城委員	中洲学区では現在あるイベントを大事にしていこうと考えている。中でも中洲小学区の半世紀経つ30mのメタセコイヤをツリーにしている。中洲学区の世帯数分の電球を灯したツリーとなっている。駅前だけでなく中洲小学校にもそういったツリーがあることを見ていただきたい。
布野委員長	全体会議では絞ってまとめてメリハリを聞かせる議論をする役割だと思っていたが、時間がない。
山岡委員	琵琶湖大橋のもとに守山市のシンボルマークであるアーチを何が何でも作っていただきたい。
藤井委員	<p>玉津、小津、中洲学区の第5回会議に参加した。参加者がいきいきとダイナミックな議論が交わしており、ここに盛り込まれていない個別の意見が多く出ていた。重点プロジェクトに盛り込まれていない意見もプランでは活かしていくということであったので、全体会議において性急にキーワードでまとめてしまうと、学区ごとの固有性とアイデンティティが失われてしまう。</p> <p>1月に各学区に持ち帰るといふことなので、他学区でどんな意見が出たかを見ながら、相対化は各学区の中ですればいい。全体会議で早くまとめてしまわない方がいいのではないかな。</p> <p>NPO法人豊穰の郷では早くから水辺百選を選出している。そういったNPOを含めた既存の活動団体と連携しながら進めていくことで、知的財産と構造財産が活かされ地域が生きていくのではないかな。</p>
布野委員長	今の意見も最もだが、一方でミッションとしてまとめるように市長から預かったと思っている。
高野委員	このプランは3年から10年かけて取り組むと記載されている。ひとまず26年度は何ができるのかなど短期的にできることと長期的に出来ることを分けながら学区で出来る取組を考える。全体会議としては、年度毎に学区の取組をまとめていく方法でいいのではないかな。それに対して行政は予算化をしていただく。
西村委員	7学区の発表を聞き、何か足りないと感じていた。中心市街地活性化で商業に力を入れているが、まるごと活性化の中でも学区にある地元の商店を大

	事にする取組が抜けているのではないか。水とホテルと自然だけでなく、地元の商業を大切にする取組を重ねていかないと活性化につながらないのではないか。
--	--

(2) まるごと活性化プランの内容構成について

藤井委員	読み手の主体が市民であるならば、このような行政チックなまとめでは活性化しないだろう。例えば学区ごとに円盤みたいなものがあり、動かしていくと玉津が出てきたり中洲が出てきたりという、動いていることがわかるような、今までとは違うまとめ方をしないといけないのではないか。高谷先生がおっしゃったような 50 年先の大きな夢を置くと全く違う訳で、資料としては大事なのでまとめは必要だが、市民が読んで、自らも参加したいと思わせる型を破った見せ方をしてはどうか。
布野委員長	まとめ方をどうするかは、藤井委員の発言も踏まえて考える。資料集としてまとめながら、概要版パンフレットをつくる方法もある。

(3) 今後の検討および策定の進め方について

布野委員長	次回は学区ごとの 26 年度の取組についての議論がメインになる。時間が気にならないように休日の午後の開催にしてはどうか。まだ発言いただけない委員もいらっしゃるの、言い残されたことなど発言をいただきたい。
井上委員	資料には具体的取組がまとまっているが、実施主体が明確になっていないので、今後これらの取組が実際にできるのか心配している。
布野委員長	来年度に向けてのアクションプランであるには、実施主体が記載されているほうが取り組みやすい。来年度に向けてどうするかは協議していただきたい。
事務局	行政の予算枠もあるが、市としては地元の思いを何よりも大事にしていきたい。これについては次回の議論で進めたい。
布野委員長	箱モノはダメとしか聞いていないが、それ以外にどれくらいの予算がつくのか。
事務局	現在予算要求をしている段階である。その中で地元からの要望の大きさを考慮して決めることになる。 4 回目の全体会議は 2 月開催の予定をしているが、委員長と相談させていただきながら、全体会議の回数も含めて可能な範囲で軌道修正をしていきたい。 委員長にご提案いただいた休日開催についてはどうか。
布野委員長	7 時半開催では時間が足りない。
高野委員	土日は学区のイベントが多く、学区長は忙しいので避けていただきたい。7

	時から 9 時過ぎまでとすれば時間は確保できるのではないか。
布野委員長	学区長が出席できないようでは困るので、平日の 7 時開始で次回の日程調整させていただく。
藤井委員	学区別の日程が決まれば委員にも周知していただきたい。
事務局	お知らせさせていただく。 学区では熱心な議論をいただいている。それもプランの目的のひとつだと考えている。その目的も達しつつあるが、全体会議でもプランをまとめていきたいので、今後ともよろしく願いしたい。